

前回策定委員会での主なご意見

1. 基本理念のスローガン（案）について

ご意見	事務局としての考え
○スローガン案は誰に向けて発信することを意識するのか。皆に呼びかけるのか。特定の層に呼びかけるのか。（山根委員）	「調布市民、事業者、来街者も含めすべての人」と考えます。
○「ごみゼロ」をどこまで受け止めるか。大きな目標を掲げる意義という反面、ごみ収集の現場などを見てもあまり現実とかけ離れても、という気持ちもある。（山根委員） ○市民から「ごみゼロって何ですか」と問いがあった時、市民を説得しスローガンとして掲げることに意義があるのではないか。調布市のごみ行政の意欲を示すことになるのでは。（渡邊委員） ○「ごみゼロ」という言葉に決して反対しているわけではないが、本当に実現できるかは考えなければならない。生産活動、消費活動していく上でごみの発生はゼロにできず、排出されたものは市としては資源化によってゼロにもっていくしかないが、それを市民に示せばよれで良いのか、という部分は議論が必要。基本的にはごみを減らしていくのが当然で、市民・事業者もごみ減量に取り組んでいくことになると思うが、それも合わせて「ゼロ」と言い切って良いのか。（江尻副委員長）	「ごみゼロ」という文言に関するさまざまなご意見を踏まえ、スローガン案を再検討しました。 新たなスローガン案： 「みんなで目指そう！ ごみを減らしてゼロカーボン都市 調布」 （資料 1、参考資料 2）
○「ゼロ・カーボン」はCO ₂ 排出量・吸収量を差し引いてゼロという事だったと思うが、「ごみゼロ」に明確な定義はあるか。（相田委員）	「ごみゼロ」はいわゆる理念であり、明確な定義はありません。なお、ごみ処理事業においては焼却処理やリサイクルの過程でCO ₂ が発生するため、その削減を目指す意味で「ゼロカーボンシティ」という文言をスローガン案に取り上げています。

2. 重点施策の方向について

ご意見	事務局としての考え
○「循環型事業活動の促進」で、「メーカーによる自主回収の促進」は具体的にどのようなことを指すか。(渡邊委員)	本市においては、コンタクトレンズのアイシティとの協定によるコンタクトレンズケースの回収事業や、インクカートリッジの回収事業といった取り組み事例があります。
○重点施策6「パートナーシップの形成」は大事ではあるが、「形成」だけで終わって良いのか、皆さんのご意見を伺いたい。(田辺委員)	本日の資料1の8ページ、重点施策6を「パートナーシップの形成と強化」と修正しました。
○イトーヨーカドーでは小学生等を対象とした取り組みを行っている。環境教育や回収拠点としての民間の役割もあり、次世代・未来につながるパートナーシップの形成には前向きに取り組んでいきたい。(岡ノ谷委員)	本日の資料1の8ページ、重点6枠内の4番目の項目を、「環境教育・環境学習の推進を通じた教育機関や市民団体、事業者との連携」と修正しました。

3. 計画目標（数値目標）の設定について

ご意見	事務局としての考え
○事業系ごみや資源物も含めた排出抑制が必要なので、総ごみ排出量の排出抑制目標を立てることが望ましい。(江尻副委員長)	いただいたご意見を踏まえ、再検討した目標設定の事務局案を資料1の2ページに示しました。
○計画目標はいくつを考えているか。最終処分量目標はCO ₂ 削減目標と差替えても良いのではないか。(山根委員)	
○5つの計画目標を全部用いても良いのではないか。(渡邊委員)	